

## 高校での運動経験とラクロス技能に関する研究

### A study on relations between the playing level of lacrosse and the experience of sports in high school

1K07B040-2 岡部 泰祐

指導教員 主査 磯 繁雄 先生 副査 田内 健二 先生

#### I 緒言

私は現在、早稲田大学の体育会男子ラクロス部に所属し、選手として活動を行っている。ラクロスはまだ馴染みのないマイナースポーツであるが、年々競技人口を増やし、カレッジスポーツの代表的なものとして堂々たる地位を確立しつつある。その特徴のひとつとして、高校での経験者が多い慶應義塾大学を除く全ての大学で、高校まで違う競技をやってきた選手が大学から新たにラクロスを始めることが挙げられる。

しかし、ラクロスを始めるとスタートラインは同じでも、一年目から明らかに技術や戦術理解の差が生じてくる。そしてそれはチーム編成やユース選抜という形で現れてくる。この原因として中学・高校での運動経験が関係しているのではないかと私は考えた。そこで本研究では、中学・高校での運動経験や運動特性が男子ラクロスの技術、チーム編成にどのように関係するのかを質問紙調査によって明らかにすることを試みた。

#### II 方法

関東学生ラクロスリーグの1部に所属しており、かつCチームまでチームがある大学の選手を対象にアンケート調査を行った。対象となった大学は早稲田大学、一橋大学、東海大学、立教大学である。この時の有効回答数は160であった。

調査項目は高校での競技歴に関するものと大学でのラクロスにおける技能やチーム編成、代表歴などに関する全17項目を設定し、得られたデータもとに5つの観点から考察をした。

#### III 結果・考察

1. 高校時代の代表・選抜歴とラクロス選抜の関係については高校時代に地区選抜以上に選ばれている選手はそうでない選手に比べて圧倒的にラクロスにおいても関東ユース候補以上に選ばれていた。この原因として各種目が持つラクロスにとっても必要な技術が高いレベルで持っていることや、厳しい競争を勝ち抜いてきた強い精神力が大きく関係していると考えられ、それが、選抜に選ばれていない選手に比べてアドバンテージになっているといえる。

2. 出身スポーツ別のラクロス選抜の割合については、最も高い割合でラクロスの関東ユース候補以上に選出されていたのはラグビーであった。次いでバスケットボール、サッカー、野球、陸上、バドミントンと続いた。しかしながら、上位の種目に関して多少の差はあるものの、極端な差はなかったため、大きな関係性はないと考えられる。

3. ポジション別の出身スポーツの違いについては、アタックとゴリーは野球出身の選手が多く、ミディはサッカー出身の選手、ディフェンスはラグビー出身の選手が多い結果となった。それぞれのポジションにおいて必要とする能力や技術をそれぞれ最も人数の多かった競技においても重要であることが大きな理由だと考えられる。

4. 高校での運動経験とラクロスの得意・苦手プレーの関係については以下の通りであった。得意なプレーに関してはそれぞれの競技特性が反映されたプレーが得意であったが苦手なプレーに関してはほぼ全ての競技で利き手と逆手のプレーと回答した選手が多かった。ここから利き手と逆手のプレーは高校の時の運動経験に関わらず、ラクロス始めてから習得していくべき技術であるといえる。

5. 自主練習と所属チーム、ラクロス選抜の関係については、自主練習の頻度が多ければ多いほどAチームもしくは関東ユース候補以上に選ばれる割合が高いことが分かった。また、頻度に時間的要素を加えても時間によるAチームもしくは関東ユース候補以上に選ばれる割合に大きな変化はなく、頻度が最も大きく関係していると考えられる。

#### VI まとめ

本研究においては、高校での運動経験や運動特性が男子ラクロスの技術、チーム編成にどのように関係するのか、いくつかの項目について結果を得ることができた。しかし、調査対象人数が少なかったことによる各種目でのデータ不足や分析方法等において不完全である。今後の研究においてこれらの点をさらに詰めていくことが必要であるといえる。